

新たな支援体制が必要

直言!

愛知県知事選

女性の活躍

「女性の活躍推進」が叫ばれるようになり、保育所の整備も急ピッチで進んでいる。働きたい子育て中の女性にとって追い風だが、仕事への熱意や家庭の事情をくみ取る仕組みが整っておらず、保育所の入所基準や企業への助成制度も画一的なのは問題だ。

日本は長らく「男性が外で働き、女性は家庭を守る」という風土だった。かつて勤務していたトヨタ自動車でも、

平成の初めごろは結婚・出産後に働く女性は周りに誰もいなかった。女性に今スポットが当たるのは、働き手が不足し、景気停滞などで世帯の収入が安定せず、仕方なく共働きせざるを得なくなったという側面もある。

動機が何であれ、本当に働きたい女性が働きやすい社会であるべきだが、例えば保育所の入所選考は、前提となる「働く熱意」を測る基準がない。多くの自治体で労働時間や介護者の有無などを点数化し、画一的に入所の優先順位が決まるため、働く意欲が高いのに落ちるケースも多い。加えて女性が働くには夫の理解や家事の協力、子どもの健

起業家・倉田満美子さん(52)

康状態など複雑な要素も絡むため、本来ならばきめ細かなサポートや環境作りが必要だ。行政が一人一人に合わせ



くらた・まみこ 1966年、名古屋生まれ。トヨタ自動車などを経て96年、販促支援コンサル会社「ラッシュ・インターナショナル」創業。スタッフ約60人の95%が女性。娘2人の母親でもある。

2人の公約から

樽松佐一氏 女性が元気に働けるよう働く女性への均等待遇を企業に求める。

大村秀章氏 女性の活躍に向けた企業の意識改革促進や取り組みを支援する。

事内容などの)カテゴリーで分類するなど新たな支援体制

を構築する時期にきている。愛知県で音頭をとってほしい。

会社を創業して約25年、働きたい女性が出産や育児でキヤリアをあきらめないですむ仕組みを考え続けてきた。子どもの急病など子育てが理由で仕事を休んでも、出勤扱いにして通常の給与を支払う。少人数でチームを組み、メールなどで連絡を取り合いカバーするようにしている。

中小企業でできるサポートは限界があるが、公的サポートは中小企業も大企業もほぼ同じ支援内容だ。中小企業にとって、女性社員が産休・育休を取得したり、社員や子どもがインフルエンザにかかったりした時の人練りは大変だ。国や県は現場のリアルな声にもっと耳を傾けてほしい。

【聞き手・三上剛輝】

＝随時掲載